



五小だより



五小ブログ



五小ボランティア

6月号

令和6年5月31日(金)

国分寺市立第五小学校

042-322-0045

校長 齋藤 晃

「負けたことがある」というのがいつか大きな財産になる

教務主任 畑中 康輔

いよいよ明日は運動会です。子どもたちは、今日まで練習した成果を明日の本番で発揮してくれることと思います。ただ、本番で振り付けを失敗したり、短距離走で思うような走りができず悔しい思いをしたりすることもあるかと思えます。うまくいかなかった子どもへ保護者の皆様はどんな励ましの言葉を掛けますか？

私も3児の父親であり、土日は息子の少年野球チームの監督をしています。野球は10回のうち3回ヒットやホームランを打つことができれば評価されます(プロ野球)。ということは、どんな一流選手でも7回はミスをしている。失敗が当たり前のスポーツです。世界を轟かすような活躍をしている大谷選手も高校三年生の夏は地方大会で敗退し、甲子園に出場していません。野球の試合では、ヒットを打てなくて悔しがり泣いてしまう子、打てなくても切り替えて守備位置に向かう子、子どもたちによっていろいろな姿が見られます。

また、教員として6年生の担任をすることが多かったため、中学受験をする子どもたちも多く見てきました。全員が全員受験に合格するわけではありません。受験までのプロセスで成長することもあります。さらに、受験に失敗して学ぶこともあると思います。受験の時期になると受験に向かう児童に向けて、応援の気持ちを込めた学級通信を出します。

『「負けたことがある」というのがいつか大きな財産になる』このフレーズを聞いてきつと、お気付きになる保護者の方も多くいらっしゃると思います。私にとっての人生の教科書「スラムダンク」という漫画からの1シーンです。全国制覇常連のチームが負けた時にその監督が選手に贈った言葉です。私が中学生の頃、野球部で全国大会に出場した時、準々決勝で敗退しました。高校野球でリベンジをしようと思い、その時、チームメイトと「高校も同じ高校で、甲子園目指そう。」という約束をし、高校受験に向かうモチベーションになりました。その後、志望校に入学でき、高校3年間野球に打ち込むことができました。甲子園には出場できませんでしたが、最高の時間を仲間たちと共に過ごせました。負けたことが大きな財産になりました。

私も授業中や子どもたちが何か失敗した時、失敗でどんなことを得てほしいのかを考えながら言葉掛けを行います。言葉は子どもたちを成長させるための一つの手段であると私は感じます。教師としても親としても、子どもたちへ次のステップにつなげられるような言葉をこれからも掛けていきたいと思えます。

どの学年も本気で頑張っています。明日は、子どもたちの輝く姿にご期待ください。